

あはれ

No. 10

花丸
N きんち
町屋住子



自由社



10-2

友
「兄ニイちゃん」
」

友
「友トモ子」
」

友
「友トモ子」
」

友
「近チカ岸カのコ素キは」
「やヤ子コ」
「友トモ子コ」
「友トモ子コ」

金東画
星京版
版製
自由社
金久保
東京都荒川區野三丁目四九〇

東京都江戸川
永田為春
電話(美芝)五九一一番



10-3

キシ
フ
チ符を買った

シゲル
トウキヨウ
ユキ
炭は車で行きの

ツノ
コ
とまのわゆるまに

キシ
フ
カ
「土あチ符買った」

金東京
屋京
版版
自由社
金久保
東京荒川橋脚三丁目四九〇

東京都江戸川区奥有玉 一〇七十五
永田為春
電話(美花)五九一一番



可也ぢやあ茂シゲルさん私ワタクシニ从ツから
 お友達トモの衆ウチに衆ウチお入りヨの方ユウか
 家ウチに帰カエるわ。茂シゲルさんトモな子コ
 ぢやいも車トウキョウきかに行イえお母カア
 さんアに会アえる村ヨウ私ワタクシ母マイ日ニチ
 祈イノええさるわアリガト
 可ツいよぢやい車ホンきトウに有アリ難ガトう
 4 ぢやいツなシなシなシぢやいコのおオかカげケず
 一 中ゴ国オンあワスほフ者スやマまセし
 可ツいコトなシなシなシいコトよシヤワ幸シヤワせシに
 なツつツねツ

東画
 京版
 金星版

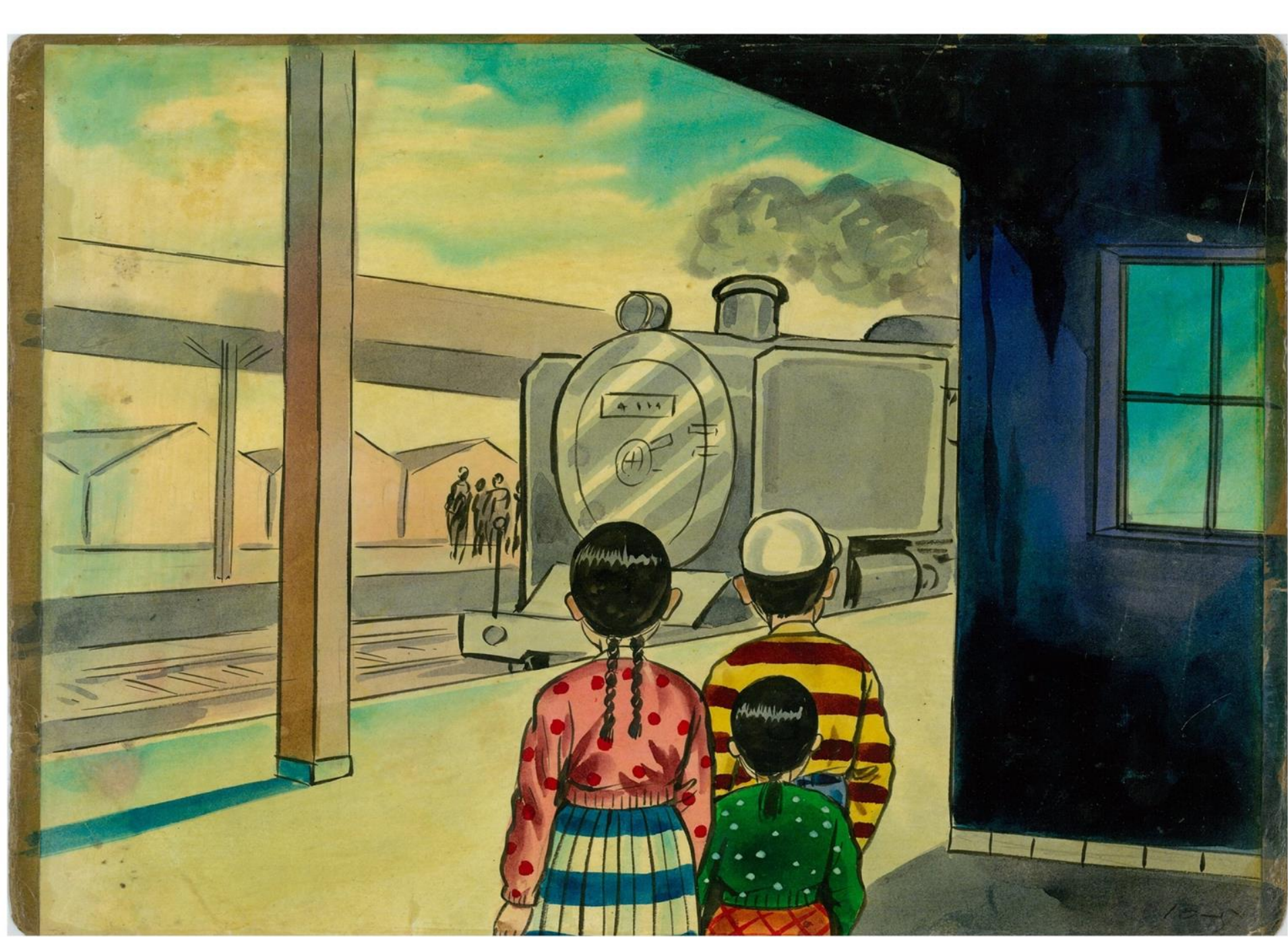
自由社

金久保 識

東京都荒川区西尾五丁目四九〇

永田 為春

電話(三宅)五九一一番



10-5

三人はホームにきえ
 待つ肉もなく上り
 上野行き列車が
 へえし来た

金東京
 星京
 版版劇

自由社

金久保
 東京新栄川町三丁目四九〇

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七一五
 永田為春
 電話(三友)五九一一番



列車の中に入ると長兄妹は
 窓の外の子と最後の
 別れも交した。
 炭きしもなまぢやもえ気
 2ね
 コその子ぢやもえ気
 6いん下まいきこと何年か
 10まららお礼に來ます

東京版
 金星版

自由社

金久保 識
 東京都荒川區藤屋三丁目四九〇

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七一五
 永田為春
 電話(共充)五九一一番



10-9

「もう見えないうすあまう」

「兄^{テイ}ちやい^{トウ}ちや^{キヨウ}た^イ行^イス

とこにい^イま^イが^イあ^イから^イな^イい

母^{カア}ちやい^イも^イど^イう^イじ^イし^イ探^サす^イの

「うん、僕^{ボク}にもあ^イから^イな^イい

「あ^{トウ}ち^{キヨウ}ち^イな^イい^イま^イか^イど^イう^イか^イも

「あ^イから^イな^イい^イた^イも^イの^イね」

東面
京星
版劇

自由社

金久保
東京新荒川橋三丁目四九〇

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七一五
永田為春
電話(三三七)五九一一番



10-10

女の目の夕方流をよ上野に
 着る長 野の外に二八は
 上野の山に登る見
 西御盛の銅像が
 10—10
 銅像が
 西御盛の
 銅像が

金東京
 星京
 版版劇

自由社

金久保誠

東京新荒川橋本三丁目四九〇

永田為春

電話(三六九)五九一一番



10-11

二人はついでに腰をあげた。

「兄ちゃん、これからどう

するの？」

「どうしようもないが」

茂もどうしていいのかわ

からないなかつた。夕やみの

色が次第に濃く

二人を包み始めたが

果して

全東京版
自由社
東京神田區三丁目四九番
電話(美子)五九一一番

10-12

217の ように

終巻10

東京
金星
版版劇

自由社

東京都荒川区
金久保
辰屋二丁目四九〇

東京都荒川区
辰屋五丁目一七十五

永田為春

電話(美子)五九一一番